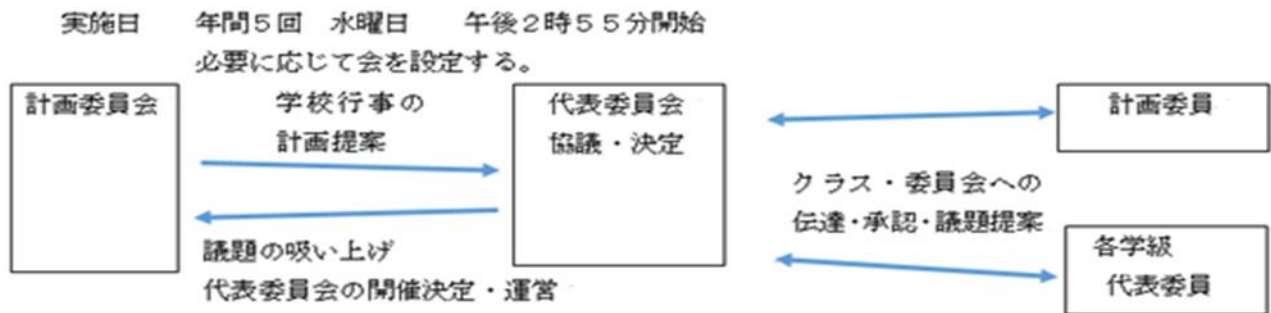


1. はじめに

新型コロナウイルスによる感染拡大は、私たちの教育現場にとって非常に大きな出来事であった。昨年度は、2か月遅れで始業式を迎えたこともあり、人とのつながりがやや希薄になっているように感じられた。今年度においてもやはり学校における教育活動には様々な制約があり、子ども達の間を強めることが本校の喫緊の課題であった。一方で、集団ではなく個で取り組むことが多くなったため、子ども達の個性が表出する場面も多くなった。

学校行事、特に子どもたちが企画運営を行う児童会行事は、学習指導要領で示されている「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」において、子どもたちを育てていく大きなチャンスであると言える。

これらのことから昨年度に引き続き、感染症対策を試みながら、できるだけ体験的な活動を行っていき、様々な取り組みをしてきた。本校において、児童会で設定するテーマは、毎年、子どもたちの合言葉のようにになっている。そのテーマに互いを理解し、認め合うことの大切さを盛り込もうと考えた。



2. 代表委員会

代表委員会は各クラスの代表（1～3年は教師）と委員会の代表が協議・決定する機関である。今までは児童会室で行っていたが、学年をまたいだ子どもたちが集まることになるので、お互いに距離をとり、密を避け、体育館にて行うことにした。

体育館では掲示物の大きさについて考えなければならなかった。今まで使っていたものでは見えないものがあるので、タブレットに打ち込んだもの（keynote）をモニターに写し、広い場所でも全員が見えるように工夫した。また、決定した事項などについては事前に用意していた短冊を用いて掲示した。

第1回代表委員会では、事前に児童会テーマについて募集を行い、決定したテーマ「十人十色！」について、それを実現するためにどんな取り組みを行うのかを協議した。バッジを作る、テーマをはる、ポスターを作るなどの意見について委員会で役割分担を行い実施することになった。「十人十色！」の意味が1年生には難しいのではないかなどの意見もあったが、新聞委員会の広報の中で説明するなど、それぞれの委員会が工夫して取り組めた。



また、1年生を迎える会についても話し合った。昨年度は集会を行うことができなかったので、どのように開催するかが論点になった。協議の結果、放送によるクイズ大会を実施し、2～6年生の各クラスが考えたクイズを1年生の代表数名だけ放送室にて解答することになった。そして、ディスタンスを保ちながらお互いに顔見せできる方法はないかと考え、1年生が各学年の廊下を通り教室から歓迎の拍手を送る事が決まった。

当日は軽快なBGMと共に放送が始まり、1年生が一生懸命クイズに答えるたびに各クラスから拍手や歓声が上がっていた。特に「急いでいるなら廊下は走ってもよい。○か×か。」など自分のクラスのクイズが出題されると「うまく答えられるかなあ。」「ちょっと難しかったよなあ。」などと盛り上がっていた。また、クイズ後の歓迎行進では1年生が廊下を通ると歓声があがったり手を振ったりする姿が見られた。計画委員の連携により「今、1年生は○年生の廊下を通過しています。」などの放送がなされていたので、自分のクラスの前を通り過ぎた後も飽きない工夫がされていた。

第2回代表委員会では、本校が創立40周年を迎える事からその記念となるイベントを行い、その内容をどうするかについて話し合った。放送を使った○×クイズや子どもたちが撮影した劇など学年に応じた出し物を担当し、それぞれの教室にて実施した。

当日を迎えるまでに、校章の塗り絵を作成し、全校生分を集めて掲示したり、校内に40周年おめでとうの表示を掲げたり、それぞれの担当児童が自分の役割を遂行していった。

当日は、各学年が作成したクイズや劇などの出し物をオンラインで各教室に放送した。子どもたちはそれぞれ、1学期に配布された「十人十色バッジ」を胸に付け、それぞれの出し物を楽しんだ。出し物の中に、いろいろな友達が登場しており、それぞれの子を見ていく中で、多様性に気付くことができた。

